

小郡市地域おこし協力隊  
による活動報告コラム。

小郡農業活性化

小郡で育てて

小郡で食べる

日々の活動を  
配信中!

小郡市地域おこし協力隊

moromoro82

nougyou\_ogori82



「あじさかふぁーむ」のシール

成長すれば、この先何年も園の後輩たちがドングリを拾い、大きさを形を比べながら笑い合うことでしょう。

「タイムカプセルになれば」と園長。

園の畑で野菜の種をまく園児ら



市産の農作物を、多くの消費者へ



諸岡佳紀(もろおかよしき)

1984年、佐賀県生まれ。京都の大学を卒業後、金融業界、新聞社で10年間勤務。小郡市に住む友人の影響で、まちの魅力を身近に感じ、地域おこし協力隊に興味を抱く。35歳の節目に一念発起で応募。

味坂保育園が野菜を出荷、対価で思い出づくり

味坂保育園の園児が農作物を育て、「あじさかふぁーむ」というブランドで生産者直売所「宝満の市」に出荷しています。売上げで来シーズンの苗や種を購入するサイクルづくりが狙いです。「農業で得た対価で思い出づくりを」と廣瀬崇園長。

園は保育園として認可され71年。それ以前から農繁期に子どもを預かる寺子屋だったそうです。廣瀬園長は13年前に保育士になり、3年前から現職。「心を豊かにする食育の推進」をモットーに農作業を保育に取り入れています。

園近くに合計160坪の田畑を持ち、もち米や大豆、ジャガイモなどを育てています。大半は給食の材料として使いますが、「汗をかき、対価を得ると欲しいものが買える。そんな体験が子どもを成長させる」との狙い。今年7月から「宝満の市」に野菜や切り花を出荷しています。かわいイマスコットキャラのシールでブランドの差別化も。

年度末で卒園する年長さんは、野菜を出荷して得たお金でドングリの木を購入するそうです。大きくなって再び園を訪れた際に、木を見上げて汗を流した日々を思い出せるように「タイムカプセル



Ogostagram

地域おこし協力隊の日々の活動記録。



祇園の飲食店「Pescapazzo(ペスカパッツォ)」で地元産唐辛子を使った激辛ピザが楽しめます。「辛さ」でギネスに記録された品種・キャロライナリーパーを使用。



大板井の米農家・廣田秀春さんがYouTubeチャンネル「おもてなしごはん研究所」を開設。草刈りや田植えの動画は5分ですが、大変さが伝わってきます。



音楽家兼マンゴー農家の緒方淳一さんが、ビニールハウス増設の支援を募るクラウドファンディングを開始。返礼品として来年夏に完熟マンゴーが届きます。



信号機カラーのゆずがしょうが宝満の市で販売されています。信号機は、「赤→止まれ、青→進め」ですが意外にも、赤が一番マイルドで、青が普通、黄が激辛。



加地市長は、「花の地産地消のモデルケースに」との思いを込め、自身の特別定額給付金で三井地区の花を購入しています。年度末まで続けるそうです。



市が特産品化を進める「キヨミドリ」の枝豆が販売されました。生産した市内農家さんは「豪雨災害を免れ例年よりも大粒で食べ応えアリ!」とアピール。